

出穂後高温時における適正な水管理について

仙台農業協同組合

- 7月中旬以降、気温が高く推移しております。最高気温 30℃以上、最低気温 23℃以上とこれから気温が高い日が続くことが予想されます。
- 管内の水稻は、7月28日に出穂始期と予想され、8月1日には出穂期に達するものと思われます。
- 出穂後に最高気温や夜温が高い状態が続くと稲体の消耗による登熟不良や白未熟粒の発生等により品質の低下が懸念されます。また、出穂後10日間の最高気温が高いほど、胴割粒の発生が多くなる傾向があります。
- 高温登熟による品質低下を防止するためには「昼間深水・夜間落水管理」が有効ですが、用水の確保が難しい状況においては「走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ水管理」を行うことにより白未熟や胴割粒の発生が軽減されます。なお、落水時期は出穂後30日前後としてください。

【胴割粒が発生しやすい基準温度】

○出穂後10日間の最高気温の平均：30℃以上

【白未熟粒（乳白等）が発生しやすい基準温度】

○出穂後20日間の最高気温の平均：32℃以上

○出穂後20日間の平均気温の平均：27℃以上

○出穂後20日間の最低気温の平均：23℃以上

○高温時の水管理について

① 昼間深水・夜間落水管理

晴天時の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移を見ると、気温よりも数時間遅れて水温の低下が見られるので午前9時～10時頃に入水し、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水するのが望ましい。

② 走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ水管理

出穂後の水管理を保湿管理で維持することによって、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば白未熟粒や胴割粒の発生が軽減できる。